

原文と作家の口語訳を読み比べ、表現効果の分析を通して、作家が口語訳するにあたって行った工夫を考える。また、それを生かして自分でも工夫した口語訳を書く。

【前提】物語の大筋は変えない。起こった出来事は変えない。

【構成メモをつくろう】

(1) どのような読者を想定するか。

(2) 何に重きを置くか。(マトリックス図に) ↓

(3) (2)に対してどのような効果をねらって、どのような工夫をするのか。

観点	ねらう効果	する工夫
語り手		
人物描写		
情景描写		
文体		

(5)省略する部分(もしあれば)

(6)用いたい表現方法に○をつけよう。↓オノマトペ・対句・比喩・省略・倒置・反復
他 ()

(7)大切にしたい原文↓どう訳す?

①

②

③

〔自己評価〕

- ・意図は最後まで貫けたか。 A・B・C
- ・効果的な表現ができたか。 A・B・C
- ・紫式部の巧さをどこに感じたか。

(

〔他己評価〕

- ・訳者の意図を感じたか。 A・B・C
- ・表現効果をどの部分に感じたか。

(

- ・登場人物の心情は感じられたか。 A・B・C

)